

スミちゃんの韓国イヤギ―最終回―

「皆さん、お世話になりました!」

だいぶ暖かくなり、今年の春も近づいてきているような気がします。春になると、いつも淀江に来た春のことを思い出します。重たいスーツケース2つとともに、淀江に着いた2年前の日のことをいまでもよく憶えています。見慣れてないアパートには広い部屋が3つもあり、しかもその部屋の引き戸はカギがなく、1枚の窓を開けるとそこがすぐ外になることや怖くて開けることすらもろくにできなかった押入れなど、生まれて初めての一人暮らしはどれもが不安に感じられるものばかりでした。家事にしても一体何を先にしたら良いのか分からない状態で、戸惑いも実に多かったです。それまでは一人暮らしにひそかに憧れていましたが、外国での一人暮らしはそんなに単純に楽しめるだけの話ではありませんでした。

掃除・洗濯はもちろん、これからの自分の全てのこととは自分で判断し、ちゃんと責任をとらないといけないという気持ちが自分を常に押さえ付けていました。いうまでもなく、今では「やっぱり、一人の方が楽だなあ」と思いながら、「気楽な一人暮らし」を存分に楽しんでいます。そして、韓国へ一時帰国したときさえも、一人でゆっくりしたいなと思い、淀江に早く帰りたくなります。また、そのことに焦りを感じたりもしたものです。最初の自分からだと、今の自分はとうてい想像もできなかったことです。

ところで、私は家事と仕事をなんとか自力でやっていくうちに、たくさんのことを考え、そして多くのことを学ぶことができました。私は今までどんなに幸せな子だったのか改めて実感し、そして遅くも、今までわがままな私を大事に育ててくれた親の有難さを感じしみとを感じるようになりました（涙+涙）。これから親孝行しないといけないなと思っています。なんで

もやってもらっていた面倒くさがりやで末っ子の私にとって、一人暮らしの経験が本当に良い勉強になり、なんとかやっている家事もちょうどいい花嫁修行になったのかもしれない。

淀江での生活は不安なスタートでしたが、「住めば都」という諺のように、私は時間が過ぎるにつれ、気付かぬうちにすっかり淀江の大ファンになっていました。たまに研修で東京などに出かけたときも、都会の大勢の人混みにすぐ疲れを感じ、「早く淀江に帰りたいなあ」と思ったほどです。こんな私は同僚の交流員から「あんたは異様だよ〜」などとはよく言われていますが、それだけ淀江での生活が自分に合っていたのかもしれない。何よりも良かったと思います。

私の淀江の大好きなスポットがいろいろあります。まるでアニメ「トトロ」に出てくる猫バスみたいな2両だけの汽車をはじめ、秋になると道沿いに咲いているコスモスや美味しいお水、物静かな夜の風景など、どれもが私の心を癒してくれるのに十分なものでした。たまに出現するトカゲにも驚かなくなり、汽車の音にも淀江弁にもすっかり慣れてきたのに、4月から米子市との合併とともに米子市役所へ行くことになりました。二年間の淀江での生活でしたが、一生忘れられない素敵な思い出がたくさんできました。いつも優しくしてくださった淀江の皆さんにこの場を借りて厚くお礼を申し上げたいと思います。そして、今まで「スミの韓国イヤギ」を読んでくださった皆さん！カムサハムニダ！皆さんとのいろんな思い出を大切にし、4月から米子の交流員として頑張っていきたいと思います。どうもありがとうございました！

（淀江町国際交流員 李秀美）

◎クイズ「これ何だかいなあー？いま・むかし⑦」は、10ページをご覧ください。

これ何だかいなあー？いま・むかし⑦の答え

答えーこれは、上淀廃寺跡から出土した瓦です。今からおよそ1,300年前、寺が建てられた当時のものと考えられています。左を平瓦、右を丸瓦といい、屋根の上に交互にふかれます。現代では平瓦1枚と丸瓦1枚がくっついた形となっており、横に組み合わせられています。現代の瓦の縁にある丸い部分は古代の瓦のなごりです。

